

予報期間 2月4日から2月10日まで

## ◆今期間のポイント

## ＜主要しょう乱の概要＞

- 6日は、低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。
- 7日から8日は、発達した低気圧が千島近海からカムチャツカの東へ進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出して、日本付近は強い冬型の気圧配置となる。日本の南に気圧の谷が東西にのびる。
- 9日は、高気圧が西日本付近に移動して西から冬型の気圧配置が緩む。
- 10日は、高気圧が日本付近から日本の東へ移動する。日本海に気圧の谷が進む。

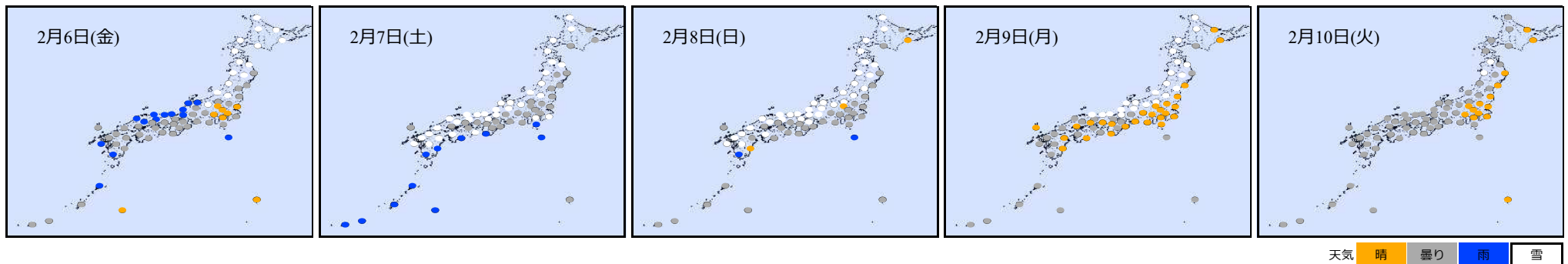
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6日から7日頃にかけては、オホーツク海に進む発達する低気圧の影響で北日本では大荒れとなるおそれがあり、低気圧の発達の程度等によっては大しけとなる可能性がある。
- 8日頃は、強い寒気の影響で東日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となり、寒気の程度によっては警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

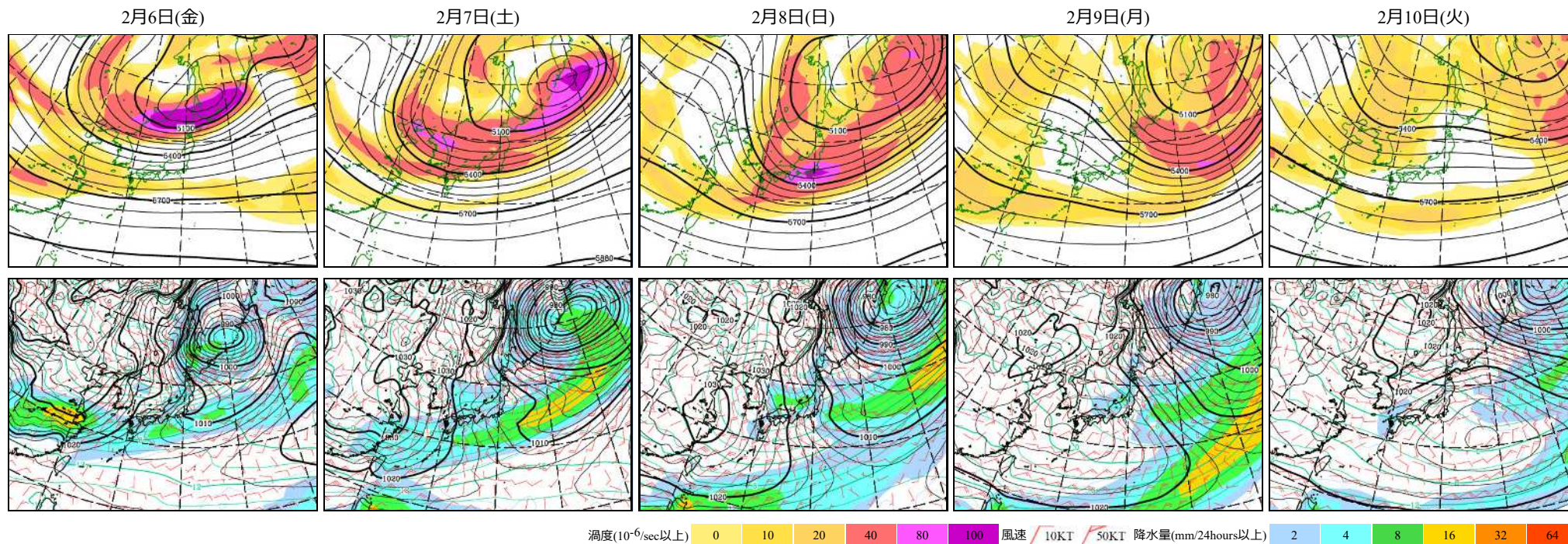
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



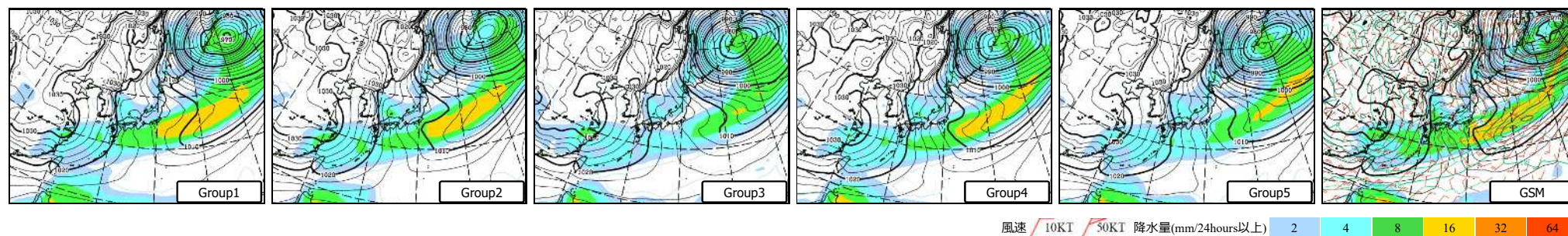
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多いが、6日から8日にかけては雪または雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、6日と7日は雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月7日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は6日から7日にかけて日本の南を東進する気圧の谷が深くなり、7日は東日本から西日本にかけての太平洋側で降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。8日は日本の東の気圧の谷が深くなり、大陸の高気圧も強まって冬型の気圧配置が強くなった。
- 7日から8日にかけて日本の南にのびる気圧の谷の形や位置にモデル間の違いが見られる。
- スプレッドは、期間の終わりは大きくなり、特定高度線のバラつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。